

隨泉寺寺報

平成18年(2006年) 5月号 第429号

TEL 082-892-0217 <http://www.ttec.co.jp/~zuisenji/>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

宗祖降誕会法座

講師 浄宝寺住職 諏訪了我師

講題 『人間に生まれた喜び』

宗祖降誕会とは、浄土真宗の開祖親鸞聖人の誕生日を記念して、聖人の生涯とその教えに思いをいたし、自分自身の日々の生活を省みることを目的とする集いです。

親鸞聖人は、平安時代の末、承安3年(じょうあん:1173年)4月1日(太陽暦5月21日)、京都の東南にあたる日野の里(現在の京都市伏見区醍醐)に誕生されました。きらびやかな王朝文化が崩れ、武士による武家政治が確立される、時代の大きな転換期に誕生され、その中で成長・活躍された情熱的な宗教家、かつその時代認識をしっかりと自己の中に受けとめて、世を厭(いと)う中にありながら、人間らしく生きることを教えた思想家としての親鸞のその足跡と念仏の教えは、700年余を経た今日にしても、なお多くの人々の心の中に脈々と生き続けています。私たちは、この集いの中で、ここに深く思いをいたさねばなりません。

5月の法座予定

- 5月 7日.....掃除 荒野
- 5月13日午前11時より.....鎌田晃宣・ヒデ法要
- 5月14日昼席午後1時より.....宗祖降誕会法座
- 5月14日午後三時より.....初参式
- 5月14日夜席午後7時半より.....出張法座 荒野集会所
- 5月15日朝席午前10時より.....宗祖降誕会法座 門信徒総会 おとき
- 5月15日昼席午後1時より.....宗祖降誕会法座
- 6月 2日午後6時より.....門信徒会本部役員会

☆15世住職長男 鎌田晃宣 33回忌法要

前々々坊守鎌田ヒデ 50回忌法要

5月13日(土) 午前11時~

15世住職の長男 鎌田晃宣の33回忌と前々々坊守鎌田ヒデの50回忌法要を勤めます。国道2号線の寺橋の交差点で交通事故により、12歳という若さでお浄土に帰りました。はや33回忌という思いもあるかと思えます。生前を偲び大切に勤めさせていただきます。

☆初参式(はつまいり) 5月14日(日) 午後三時~

平成17年生まれの子供さんの初参式(はつまいり)を行います。初参式とは、新しい生命の誕生をよろこび、生きることを教え、真のよりどころとなったださる阿弥陀如来の前で人生の出発をする式であります。

人間に生まれることの難しさについて、お釈迦さまはいろいろのたとえをもって説かれています。その生まれ難い人間に生まれ、人生の出発の時にあたり、真実の阿弥陀如来に遇うという、なによりのご縁をいただくことは、この上もない幸せであろうと思えます。



☆門信徒会総会 5月15日(月) 午前11時半~

門信徒総会を開催します。去年は隨泉寺開基400年という大きな行事がありました。

今年はじっくりと聴聞を重ねて行きたいと思えます。又久しぶりに旅行にも行きたいと思っています。こんな事をやってもらいたい、こういう行事をもって欲しいなど提案があれば是非ともお聞かせ下さい。



☆おめでとうございます。

お寺で帳場をして下さる、井原の桔梗孝行さんが、3月3日に広島県グランドゴルフ協会が主催する中央地区交歓大会というグランドゴルフの大会で、優勝されました。613名が参加されるという大きな大会で、ハーフ 8ホール、パー24のところを前半13、後半13で上がったそうですから、夢のようなスコアです。ホールインワンが3回もあったそうですからすごい。何しろ【自分で自分が信じられなくて、夢を見ているようだった】そうです。私もゴルフを少しだけしますが、ホールインワンなど到底出来っこありません。優勝賞品でクラブをもらったそうですから、これで又熱が入る事でしょう。

☆御礼

永代経懇志 金 拾萬円 大歳 由喜子殿 故 大歳 憲正様 特別永代経志として

☆御礼

門信徒会へ 金 一封 大歳 由喜子殿 故 大歳 憲正様 香典返しとして

5月カレンダー

東井 義雄

光に遇うと

光をもたない星までが輝きを救つ

六年生のG郎君たちの学級では、担任の先生の提案で、生まれたときから六年生になるまでのことを、お母さん、お父さんに詳しくお聞きして、夏休みの間に「生いたちの記」をまとめる、ということになりました。

腕白者で評判のG郎君は、背も体もお母さんよりも大きく、頑丈なやんちゃ者でしたが、夏休みに入る前の晩、「お母さん、『生いたちの記』を書くことになったんや。まず、ぼくの生まれたときのことを、今夜は、聞かせておくれ」とお母さんにお願ひしました。

お母さんは、G郎君を仏間へ連れていかれました。そして、仏さまを拝み、お仏壇の引き出しから、小さい紙包みを取り出して、G郎君に渡されました。

ていねいに包んだ包みを開くと、また包みが出てきました。それを開くと、また包みがあるので。「何を、大事そうに？」と思いながら開いていくと、最後に出てきたのは、小さい、かわいい爪でした。

「何だ、ばからしい、爪なんか」と、G郎君が、胸の中でつぶやこうとしたとき、「あんたが生まれてくれたとき、両手にも両足にも、指がちゃんと十本そろった男の子として生まれてきてくれた。こんな立派な男の子を、仏さまが授けてくださったかと思うと、うれしくて、うれしくて、仏さまに、お礼を申し上げずにおれなかった。そして、仏さまによるこんでいただけるようなよい子に育てさせていただきますと、お約束せずにはおれなかった。それから、お母さんは、あなたの最初の十本の爪を、お母さんの、一番の宝物にしてきたのよ」と、おっしゃるお母さんの顔には、涙があふれていました。

それを見たら、G郎君は、わがままばかり言って、お母さんを何べんも困らせてきた自分が、一気に思い出されてきて、気がついてみたら、「お母さん！」と叫んで、お母さんの首っ玉にしがみついていた。そして、お母さんのひざの上に、涙を落としたといいます。

それを見たら、G郎君は、わがままばかり言って、お母さんを何べんも困らせてきた自分が、一気に思い出されてきて、気がついてみたら、「お母さん！」と叫んで、お母さんの首っ玉にしがみついていた。そして、お母さんのひざの上に、涙を落としたといいます。

翌日から書きはじめた、G郎君の長い「生いたちの記」の、いちばんはじめに書かれていたのが、このことでした。二学期からのG郎君には、今までの元気さといっしょに、優しさが輝くようになりました。

主人へ

急に食欲をなくし、安芸市民病院にて手術、信頼できるスタッフに出会え、苦しい顔も見せず、親族の見守るなか息を引き取り、大勢の皆様の見送りを受け、小春日和の日、旅立たれましたよね。

貴方がいなくなり、近所の方、遠方の方々が【仏さまを拝まして下さい】と訪ねてくださり、私も慰められ、【お経さんをあげてあげるのが一番の供養になりますよ】と教わり、意味の解らぬまま読んでいましたが、四十九日のお勤めで『新編勤行聖典』お勤めくださいました中に「人間のすがた」《人は愛欲につながれて、独り生まれて独り死に、独り来たりて独り去る。即ち、人はその行いによって、苦楽の境界を作り、己がその責を負い、誰もこれに代わること能わず。》

又、《一つを得れば他の一つが欠け、これがあればかれ無しといえる有様なり。たとい、これらのものみな整えたりと思っても、束の間にして直ちに又消えうせてしまうなり》

欲の塊の私でした。貴方が側にいて助けてくださっている事にも、二人の子供という宝を下さった事にもきずかず、おろかな私でした。来世がありましたら、又、私と結婚してくださいね。

香月子より 合掌

縫部 清隆 法名 釋清信 平成18年 2月11日往生 行年69歳

げんげ

金子みすゞ

ひばりききききつんでたら、
にぎり切れなくなりました。
持ってかえればしおれます、
しおれりゃ、だれかがすてましよう。
きのうのように、ごみ箱へ。
わたしはかえるみちみちで、
花のないとこみつけては、
はらり、はらりと、まきました。
——春のつかいのするように。

